

令和3年度 枚方市オレンジ初期集中支援チーム研修会 交流まとめ

参加者の質問・感想等

■ 研修感想全般

※太字…今後の展望

■今までにチームを発動したことがなく、今回の研修で、終了決定会議後、発動後、必要に応じてモニタリングやフォローの支援があること等初めて知った。**今後は利用していく必要性を感じた。**

■わかりやすく、良い研修だった。ピアノ伴奏付きのロールプレイ形式により、発動から支援終了までの流れ、チーム員の支援等について具体的に理解できた。今までに支援してきたケースを思い浮かべ、チームを発動していれば医療機関チーム員の助言がもらえたように感じた。

■今回の研修で、医療機関チーム員と顔の見える関係になれると感じた。発動までの流れや家族支援等わかりやすかった。**今後、発動を検討するようなケースがあれば市に相談していきたい。**

■かかりつけ医がなく苦慮するケースもあるが、今回相談できることがわかった。チーム発動の目的や流れ、支援内容や方針を理解でき、勉強になった。

■チーム発動はハードルが高いように感じていたが、今回、「どういう場面で、どんな帳票が必要か」が理解できた。「あのケースは、チーム発動してもよかった」等今までの事例を振り返っていた。今後活用していきたい。素晴らしい機会に感謝したい。

■ロールプレイ方式の説明は、手順がわかりやすく、伴奏や効果音の演出が素晴らしかった。縁遠い存在だった認知症初期集中支援チームが身近に、頼もしく感じられた。**機会を見て利用したいので、ぜひ頼りにさせてほしい。**

■活動事例の1つは、自包括にて発動したケースだった。今回、ロールプレイ形式で説明を受けることで、書類作成・提出先・使用場面等流れがよく理解できた。**伝達研修の中で振り返りながら、職員へ伝えたい。**

■センターで発動していても、担当ケースでなければ詳細はわからないこともあり、今回は発動から終了までの流れを理解できた。**対象ケースとして、必ずしも多問題を抱えるケースでなくても、BPSD 対応が困難なケース等で相談してよいとわかり、今後はまずは気軽に相談したいと思う。**

■今までは圏域に認知症専門医療機関との連携を主軸に支援していたが、医療機関受診に苦慮するケースも多く、チーム発動を検討してもよかったと振り返りながら受講していた。

◆ 発動のメリットを感じたこと

※太字…今後の展望

◆チームを発動することで、医療機関チーム員等、多職種から様々な意見がもらえる。**各種書類作成はまだ慣れておらず大変のように感じるが、今後は必要なケースをチーム発動につなげていきたい。**

◆自身がここ数か月支援しているケースを思い浮かべ、発動を検討してもよかったと考えた。研修事例のケアマネジャーも悩んでいたと推測され、今回のケース発動で支援方針や内容が定まり、ケアマネジャー支援につながったと考える。**今後は相談したい。**

◆初期集中支援チーム発動経験があり、受講することで今後の支援について考えることができた。チーム発動の目的として、医療機関受診に目線を向けていたが、**チーム員医師の助言を受けたり、家族の精神的フォローを担ってもらうことは効果的な支援につながると考える。今後、チーム発動時に活かしたい。**

◆現在発動中のケースに関わっている。医療機関チーム員は複数回訪問しており、信頼関係を徐々に構築、ようやく衛生面への支援を受け入れてもらったところ。本人の意向で介護保険サービス導入等はま

だ難しいが、チーム員会議で意見をもらい、訪問看護導入を目標とする等、協議できることは発動のメリットと考える。

◆活動事例をみて、担当ケアマネジャーは悩んだり、1人で抱えていただろうと思った。今回チーム発動することで、課題を整理でき、各機関と連携して支援したことで、ケアマネジャーにとっても大変有意義だったと考える。

◆チーム発動のメリットは、医療機関チーム員等から広く意見をもらえることだと感じている。包括内で相談し、チーム員会議で協議し、その協議結果を持ち帰って再度包括内で支援内容を考えることで、視野や支援の幅が広がると考える。今後も必要に応じてチームを利用していきたい。

● 質問・回答

●質問：医療機関等の機関で、本人やご家族が面談・電話等で相談できるような場（相談窓口や家族会等）はあるか

→医療機関チーム員：現時点で把握していないと返答。

●質問：発動事例があった際、医療機関を決定する判断基準はどうしているのか

→市健康福祉総合相談担：相談内容（BPSD 対応が必要か、インフォーマルサービスを含めた地域での支援を主軸に置くか等）や居住地域等、総合的に判断し、医療機関を選定している。

●質問：今回、チーム員医師・かかりつけ医間で情報診療提供書のやりとりを行い、内服薬変更や減薬に至ったが、かかりつけ医との連携で配慮を要する場面はなかったか。

→医療機関チーム員：チーム員会議にて、医師間でやりとりをすることが効果的と考え、診療情報提供書は具体的に方針を伝えた。書面上のやりとりだったが特にトラブル等はなかった。

●質問：専門医受診までに苦慮するケースが多い中、今回の事例はどのように医療機関につながったか教えてほしい。

→医療機関チーム員：今回のケースは医療機関受診に対し、本人には抵抗がなくスムーズに受診につながった。むしろ、家族の受診に時間がかかった。

医療機関チーム員の意見等

○今までの訪問での関わり等、支援の内容を振り返りながら、皆さんの感想等を伺っていた。よりよい支援を模索し、会議等で関係機関と相談しながら今後もチーム員として活動していきたい。

○医療機関チーム員として支援していくなかで、助言がうまく伝わらず、支援が立ち止まる等、方針に困ることもあると考える。そんな時は、包括職員をはじめ関係機関と相談しながら支援を進めていきたい。医療機関チーム員の動きや強みは、一緒に支援していく中で実感してもらえると考えるので、チームを利用していきたい。

○強みは、認知症初期の対応についての助言や生活環境調整等と考えている。チーム発動中は、日々多忙なセンター職員に代わり、定期的な訪問等で本人・家族の思いや生活状況の変化等を見守り、かかりつけ医受診につなげる等の支援提供ができるため、まずはご相談いただけたらと思う。

○現在入院中の患者を思い浮かべ、チームを発動していれば自宅で生活できていたかもしれないと振り返っていた。自身が支援する際、「心のチャンネルを合わせ、雑音にならないよう接すること」「本人も家族も関係者もオールハッピーになれること」を心がけている。今後もぜひご相談いただきたい。